

十朋亭 幕末の志士を陰で支えた 山口の町人たち

井上馨と伊藤博文が長州藩の無謀な戦争を中止させるためにイギリスから三ヶ月の船旅を経て、命からがら帰国したとき身を置いたのが豪商萬代家の離れ座敷「十朋亭」でした。ここから藩主毛利敬親をはじめ藩の幹部たちの説得に通いました。

幕末の志士のふるさと

文久三年（一八六三年）四月に萩から山口に藩庁を移したとき、藩士たちの仮の住居として藩が山口の民家から藩士たちの宿泊所を選びました。その中の一つが、豪商萬代家の離れ「十朋亭」です。住人たちは住まいを提供するだけでなく、若い武士たちの面倒を親身になってお世話したそうです。

萬代家は、江戸時代一七八〇年頃から醤油の商いで大いに栄えていました。藩からも商才を認められ家業のかたわら「越荷方会所」（今でいう貿易品の取り扱い所）の頭取を勤め、幕末の藩の軍資金集めに尽くしました。

最初の宿泊人であったと伝わるのは、藩の重役であった周布政之助です。その後、ここを利用して出入りしたのは、桂小五郎（後の木戸孝允）、久坂玄瑞、高杉晋作、井上馨、伊藤博文、山県有朋、等です。来年の大河ドラマ「花燃ゆ」にきつと登場するであろう面々。かれらの当時の体温を感じたい方には是非訪れていただきたい歴史的スポットです。



今から約200年前に建てられたものが現存している。



十朋亭の入り口。風情のある街並みにある。

伊藤博文びいきの萬代家

特に伊藤博文は、総理大臣の忙しい激務の中でも昔の人への恩義を忘れることなく、明治二十四年には利兵衛の古希の祝いに掛け軸や扁額を贈っています。このような細かい気遣いをされる伊藤博文について、五代目利兵衛をはじめ萬代家の人たちは、「偉くなられても気さくで、暖かい気持ちの持ち主であった。」との言い伝えが残っています。

明治時代も続いた交友関係

十朋亭の所蔵に、伊藤博文・井上馨の寄書の大杓子があります。日露戦争のとき広島にできた陸軍病院に利兵衛が寄附金をもって慰問に出向いたことのお礼に伊藤博文が贈ったものです。その後、井上馨が還暦の祝いで宴席をもった時、その杓子に書き添えました。井上の寄書には、「イギリスから帰って避戦・開国を献言し、旧友と激論を交わしたときには萬代家に変えお世話になったなあ：あれから三十三年という年月が流れたが、何度思い返しても面白く懐かしい。」と漢詩に詠んでいます。（大杓子は山口市歴史民俗資料館所蔵）



明治28年に伊藤博文から贈られた宮島名物の大杓子。長さ約90cm。



明治になっても家族ぐるみのつきあいをした。

人力車に乗ってみよう！ ぶらり山口堅小路 人力車運行サービス案内

かつての菜香亭には、お客さんや芸者さんが人力車に乗って来られていました。そんな昔の風情に触れながらタイムスリップしてみませんか。

山口を観光される方、山口の魅力を新たに発見してみたい方には是非おすすめします。菜香亭を起点にして、※大内文化特定地域をめぐることができます。

◎結婚式の前撮りや行事・イベントなどのご利用も可能です。ただし、料金等が異なりますので必ず事前にご相談ください。



○乗車方法

・予約制（事前に山口市菜香亭にお電話ください。）

○コース・料金

- ・乗車時間15分（片道コース／周回コース）
1名様 2,500円 2名様 3,080円
- ・乗車時間30分（片道コース／周回コース）
1名様 4,110円 2名様 6,170円
- ・乗車時間45分（片道コース／周回コース）
1名様 7,200円 2名様 10,280円

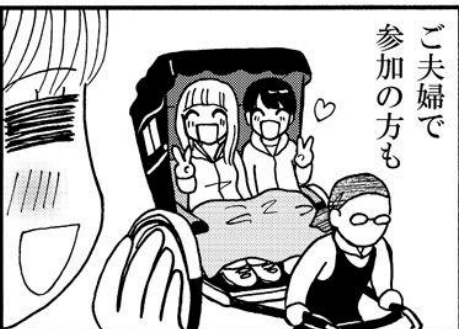
人力車乗車体験



私の漫画教室で人力車体験をした



大人も大喜び
私はいからさん
世代です



ご夫婦で参加の方も



私もめちゃくちゃ
嬉しかったです
先生と乗るの
私が乗るの

©さかもとみゆき

さかもとみゆきさん

山口市在住の漫画家。漫画教室も随時開催され、後進の育成にも尽力されています。菜香亭サポーターズとしてご協力いただいています。



山口の商店街はかすみファンで大にぎわいでした。



目線が高く、いつもと違った町の風景画染めします。

※大内文化特定地域には、大内ゆかりの八坂神社、龍福寺、一の坂川周辺や、幕末に長州藩士が集った十朋亭、明治時代栄えた造り酒屋の母屋を整備して山口の伝統工芸を伝える山口ふるさと伝承総合センターなどがあります。

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成26年6月30日発行
第33号
発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

山口市菜香亭だより

西の菜時記

平成26年6月30日発行
第33号
発行元：山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会